

山正ニュース

2016年2月号 (通巻81号)

< 山正ネットワーク >

・本 社	☎ <058>271-4468	岐阜県岐阜市市橋4-5-15
・広域資材肥料部	☎ <058>271-4468	(本社内)
・岐阜営業所	☎ <058>271-4466	(本社内)
・可児営業所	☎ <0574>62-5228	岐阜県可児市川合345-1
・富山営業所	☎ <0766>55-3882	富山県射水市大江207-1
・飛騨営業所	☎ <0577>72-4866	岐阜県高山市園府町村山857-2
・愛知事務所	☎ <0568>68-7430	愛知県小牧市久保一色町南2-181
・山正HPアドレス	http://www.yamasyou.com/	

§ 1 岐阜県で稲作経営者研究大会が開催される

～TPP関連で白熱した議論を展開、

エアドーム方式の農業ハウスやドローンにも熱い視線！～

平成27年12月8～9日の2日間にわたって、第25回東海・近畿・福井ブロックの稲作経営者研究大会が岐阜市内の十八楼において約300名の参加のもと盛大に開催されました。この大会は東海三県及び近畿地区の一部に福井県を加えた地域の水田作物の生産者及び経営者を構成員とし、研究成果の発表や講師を招いての研修、さらには最新施設の見学や資材・機材の展示・実演・情報交換等を通じ稲作経営の更なる向上を目指すことを目的に年1回開催されているもので、今回は岐阜県稲作経営者の担当で開催されたものです。

大会では主催者である稲作経営者会議のメンバーに加え、東海農政局、普及関係機関、JA、関係業者などが一堂に会し熱心な討議が行われておりました。以下ではその概要を紹介したいと思います。なお、弊社は大会2日目の現地視察会におけるドローンの実演に協力させていただきました。

◎大会1日目 (12月8日)

岐阜県稲作経営者会議の後藤昌宏会長の開会宣言に続き、来賓の方々の挨拶の後、研究大会に移りました。

最初に東海農政局から「TPPに伴う国内対策」と題して情勢報告があり、今後の稲作経営に大きな影響を及ぼすことが想定されているだけに、参加者の関心は極めて高く、質疑応答では熱い議論交わされておりました。

続いて、株式会社ライスアイランドの代表取締役小塩貞子氏による「穀類を通じた新しい商品・食生活の提案」というテーマでの講演があり、女性ならではの感性に基づく商品開発や販売

戦略の展開について、熱い視線を送っておられる方が多かったのが印象的でした。

またこの日は、肥料・農薬・農業資材関連の多数のメーカーが参集してブースを設け参加者への商品の紹介や質問への対応も行われ、多くの方が経営改善に結びつく新しい知識を求めておられることも強く感じられました。

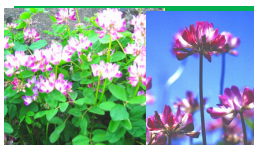
第1日目の行事が終わった後、地元岐阜県の長屋光征県議会議員も駆けつけられ盛大に懇親会が催されました。生産者同士の交流や情報交換が和やかに行われていたのに加え、メーカーに対して意見や要望を直接伝えている場面が随所に見られるなど、大変貴重な時間だったといえます。懇親会の最後には次回開催地である滋賀県の生産者の方々全員が一人ずつ次回に向けての決意表明と挨拶をされ御開きとなりました。

◎大会2日目 (12月9日)

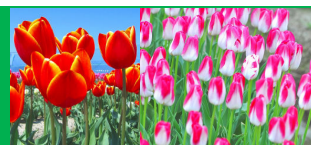
大会2日目は朝から現地視察で最初は、株式会社LSファーム様の日本初となるエアドーム式の農業ハウスの見学が行われました。このエアドーム式農業ハウスは、大型のドーム型で無柱構造、建屋は二重構造で光拡散特殊フィルムを使用し、台風や雪に強く、高さ(空間)を利用して多段栽培を可能にしたのが大きな特徴で、多段栽培にすることで土地の集約性が高まり、しかも密閉式で熱を放出しないため、(以下次ページ)



稲作経営者研究大会 (H28・12・8 岐阜市十八楼)



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



冬季の暖房費が節減できることから一年中安定した栽培が可能になったものです。その結果、確実な事業収益の向上につながり、さらには建設には土木工事を行わなくてもよいことから農地をそのまま利用できることもあいまって参加者から強い関心が寄せられておりました。



ドーム式農業ハウス全景と無柱構造ハウスの内部 (H28・12・9 穂積市 株式会社LSファーム)

次いで会場を菓南営農組合に移し、弊社が現在最もその将来性に注目し、事業化を目指して代理店契約を逸早く取得したマルチコプター（ドローン）のデモフライトの視察が行われました。

弊社が推進するドローンはヨコヤマコーポレーション様開発による **MulsanDAX04** という機体で、薬剤散布用マルチコプターです。4枚のプロペラと GPS を搭載し、

- ① 自立飛行が可能であること
- ② 飛行時間は約 11～15 分
- ③ 薬剤タンクは 10ℓ で散布幅約 5m
- ④ 1ha 当たり薬剤散布量は約 8ℓ
- ⑤ 1ha 当たり散布時間は約 8～10 分

という特徴を有するものです。

当日は天候に恵まれ、絶好のフライト日和となりました。まず、菓南営農組合の小川勝範組合長からドローンが秘める可能性に大きな期待を寄せているとの挨拶があった後、開発メーカー様から機体の主要諸元と飛行スペック（飛行時間・トップスピード・飛行可能高度などの性能）の説明、産業用無人ヘリコプターに対する航空法改正の概要報告等があり、引き続き圃場でデモフライトが行われました。



デモフライトの様子 (H27・12・9 菓南営農組合)

約 300 名の参加者が見守る中、実際にタンクに水を入れて颯爽と飛び立ち軽快に散布を始めましたが、今までの産業用無人ヘリコプターと比べ飛行中の音が静かで、細かい動きでドリフトが少なく安全性も高く、価格も安いということで今後益々需要が高まりそうです。弊社が推進するドローンのデモフライトで利用場面に対する理解がより深まったのではないかと思います。なお、今後急速に普及が進むと予想されるドローンに関する情報についてはこのあとも山正ニュースで随時お伝えしていく予定にしております。



プロポ（操縦装置）を手にフライトを体験する参加者 (H27・12・9 菓南営農組合)

§ 1 岐阜県で稲作経営者研究大会が開催される
～TPP関連で白熱した議論を展開、

エアドーム方式の農業ハウスやドローンにも熱い視線！～（可児営業所 額縁係長）・・・・・・ 1 ページ